

令和2年度 盛岡市子ども未来基金助成事業活動報告書

事業名	学力不足に悩む児童・生徒への学習支援事業及びフリースクール事業
事業者名	特定非営利活動法人 南部桜下村塾
事業の目的 (事業を実施しようと思ったきっかけなど)	子どもの教育において今後、社会が必要としていることは、様々な理由により不登校となった児童・生徒への第3の学び場の提供することで教育を受ける権利を保障することと、学業不振であるが経済的理由で学習塾に通えない児童・生徒のための学習支援により進学を増やすことの2つであると我々は考える。そして、これらの活動を円滑に行うには、法人格を取得して社会的な信用を得ることと、人的・資金的リソースを確保することが重要である。 文部科学省が公表した不登校・いじめの2018年度の調査によると、不登校16万人、いじめ54万件と何れも過去最多となり、所属の学校の他に通える第3の学びの場といった教育機会の確保が必要となる。平成28年12月に国会で教育機会確保法が成立・公布されたことにより、今後フリースクールの重要性が増してくることは明白である。岩手において、一般社団法人によるフリースクールはあるが、NPO法人によるフリースクールは岩手には1件もない上、数が足りないのが現状である。 また、各家庭の経済格差が広がっており、今では6人に1人の児童・生徒が貧困であるのが現状である。塾や習い事等の教育環境が整っている家庭とそうでない家庭といった教育の格差が広がっている。教育環境が充実した家庭の子どもの国立大学進学率はそうでない家庭の子どもの比へ、進学率がかなり高い。また、貧困家庭では大学に行きたくてもいけない、学業不振で塾に行けなく志望校をあきらめる等、進路が限られており、また、教育のアクセスが限られることにより貧困の連鎖が生じている。よって、経済的に貧困な家庭の児童・生徒の学習支援は教育の機会均等を保障するものである。
事業の実績 (日時・場所、参加者、内容、参加者の様子など)	1. 第1回子どもの教育を考える懇話会 ① 日時・場所 2020年6月14日(日) 13:30~16:00 NPO法人 南部桜下村塾 事務所 ② 参加者 6名。大人:6名、子ども:0名。 ③ 内容 講義「盛岡市立北松園中学校の実践について」 講師:岡崎正道氏 国立大学法人 岩手大学 宮沢賢治資料室 元教授 NPO法人 南部桜下村塾 副理事長 ④ 参加者の様子 盛岡市において新しい教育的実践を試みた北松園中学校設立までの経緯について、当事者であり活動の中心的立場であった岡崎正道氏の話に興味津々に聞いていた。参加者の一人は元養護学校校長の木村泰雄氏であり、木村氏の経験などを交えた補足情報などにも参加者は興味深げに傾聴していた。教育

について関心はあるが、学校現場の裏方の様子は学校の教員や関係者しかわからないということもあり、参加者は時折驚いたり、感心したりしていた。話の後には、設立に関してテレビのドキュメンタリー番組に取り上げられており、その映像を見ながら理解を深めていた。

2. 第1回自然体験学習会

① 日時・場所

2020年7月5日（日）10:00～14:30 盛岡市下米内地区「チロリン村」

② 参加者

11名。補助員：5名、講師：1名、子ども：2名、大人3名。

③ 内容

自然散策、野外炊飯

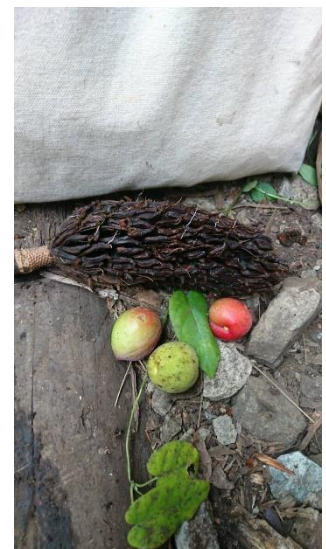
講師：大森 茂 氏

元高等学校 教員

チロリン村 代表

④ 参加者の様子

参加者は到着した当初から「チロリン村」の広さや植物の豊かさに圧巻されており、驚いたり感心したりしていた。元中学校の学校長の安原氏が参加しており、理科の教諭でもあったことから多種多様な植物が自生している場所には驚いていた。安原氏は「せいぜい杉林かと思っていた。まさかこれほどの場所が盛岡市のど真ん中にあるとは思わなかった。これは理想的な教育の場だ」とのことである。また、参加者の一人である滝沢市議会議員の稲荷場氏は「盛岡市の中心にこのような自然あふれる場所での教育活動は理想的」との感想をいただいている。子どもは児童ではないが、チロリン村の自然散策や野外炊飯は大いに楽しんでいた。



3. 第2回子どもの教育を考える懇話会

① 日時・場所

2020年7月12日（日）13：30～16：00 NPO法人 南部桜下村塾 事務所

② 参加者

6名。大人：6名、子ども：0名。

③ 内容

テーマ「子どものいじめや不登校、自殺、貧困について」

フリートーク。ファシリテーター：岡崎正道 氏

④ 参加者の様子

基本フリートークではあるが、テーマを設定することで話題の内容が子どもの教育に対する問題をそれぞれ提起し、踏み込んだ話をしながらお互いの教育に対する理解を深めていた。教育現場での問題や日本の教育の現状、今の子どもの現状などを話し合うことで、子どもへの教育の支援の重要性を参加者は理解を深めていた。

4. 第3回子どもの教育を考える懇話会

① 日時・場所

2020年8月10日（月・祝）13：30～16：00 NPO法人 南部桜下村塾 事務所

② 参加者

15名。講師1名、子ども：6名、大人：8名。

③ 内容

講義「社会におけるジェンダー問題と性教育について」

講師：Zero 氏（本名：永澤一輝 氏）

NPO法人ピルコン 職員、学生団体DAISY 副代表。

④ 参加者の様子

今回は高校生の女子生徒が4名、小学校6年生の女子児童が1名と高校を卒業したばかりの未成年が1名と子どもが6名集まった。ジェンダー問題のこともさることながら、学校教育ではなされていない「性教育」について男女の体のことや避妊についてなどについての理解を深めていた。講師が性教育活動で有名な東京にあるNPO法人ピルコンの人であるということで、女子生徒中心に集まった。女子生徒は盛岡1高生が3名、盛岡3高生が1名であり、それぞれジェンダー問題に関する活動を行っており、理解を深めたいということから講座を受講。高校生の方々と母娘が参加したが、その母親は今回の性教育の内容について「普段、学校の保健の授業では教えてくれない内容を講義してもらいありがたい。ましてや盛岡にピルコンの人が来るとは思わなかった」とえらく感銘を受けていた。女生徒及び女子児童も学校の保健の授業では教えてくれない、そして女性である以上必要な知識であるという認識から、大人の参加者以上に真剣に耳を傾けていた。参加者の一人である盛岡市議会議員の加藤まい氏は「このようなジェンダーに関する講座を開いていただき感謝したい。ぜひともこれを機にセクシャルマイノリティに対して理解を示してほしい」とのことである。

5. 第4回子どもの教育を考える懇話会

① 日時・場所

2020年11月1日（日）13：30～16：00 NPO法人 南部桜下村塾 事務所

② 参加者

7名。大人：7名、子ども0名。

③ 内容

講義「寄り添うこと～子どもの健やかな育ち～」

講師：木村泰雄 氏

岩手県立養護学校 元校長。

社会福祉法人わかば会 監事 等。

④ 参加者の様子

元養護学校の学校長である木村泰雄氏の体験を基にした講座である。子どもの参加者はいないが、子どもの健やかな育ちを手助けするにはどのようなかわりが重要なのかについて、参加者は真剣に耳を傾けていた。自分に子どもがいたりする参加者もあり、子どもとの接し方や支援学校（旧養護学校）での子どもの様子を聞き、普段かかわりの少ない校種の内情や現状などについて関心深く聞いている様子であった。

6. 第2回自然体験学習会

① 日時・場所

2020年8月16日（日）10:00～14：30 盛岡市下米内地区「チロリン村」

② 参加者

14名。補助員：6名、講師：1名、子ども：3名、大人：4名。

③ 内容

野外炊飯、自然散策

講師：大森 茂 氏

元高等学校 教員

チロリン村 代表

④ 参加者の様子

第2回目の自然体験学習会では、小学生児童が3名参加した。固形燃料などを使わず杉の葉などを着火剤にし、まきにマッチで火をつけるという作業には子どもたちは苦戦していたが、真剣に取り組んでいた。マッチを扱ったことのある子どもはおらず、物珍しいようにマッチを扱っていた。また、杉の葉が着火剤になることも知らずにいたため、身の回りのもので火をおこすことができるという発見に驚いていた。また、飯ごうを使ったことも経験が無く、電子炊飯器以外のものでご飯を炊く作業に一生懸命であった。まきに火をつけた後も火の勢いを絶やさずにする作業も、自分たちで考えながらまきを動かしたり、うちわであおいで空気を送るなどの作業に熱中していた。その後、炊いたご飯をみんなで焼きおにぎりにするときも、今回使用した天然の手作りみそを味わうことは初めてであり、経験したことのないみその味に驚いていた。普段、調整みそしか食べたことが無い子どもたちにとって大変

新鮮味のある体験であったことが様子でうかがえる。参加者の母親からは後日電話で「大変すばらしい学習会であった。次回もあるのならば今から参加の予約をしたい」とのことである。



7.

2020年9月21日（日）10:00～14:30 盛岡市下米内地区「チロリン村」

② 参加者

24名。補助員：5名、講師：1名、子ども：12名、大人：6名

③ 内容

野外活動のプリント学習、野外炊飯、自然散策

講師：大森 茂 氏

元高等学校 教員

チロリン村 代表

④ 参加者の様子

今回から、オリエンテーションとして野外活動のためのプリント学習を取り上げた。内容はアウトドア活動において、何が危険かというものをイラストから見つけて考えるという内容である。子どもたちは皆楽しそうに周りの大人と相談しながら、何が危険なのか、などのクイズゲームの良な感覚で楽しんでいた。参加者の中で盛岡市議会議員の浅沼氏と浅沼氏の長男もイラストを見ながらの勉強会を大いに盛り上がっていた。その後はまき窯と手作りの炉を使い、飯ごうでご飯を炊き、カレーを作った。子どもの参加者は全員小学生児童であり、まき窯は皆、現物では初めて見たり、初めて使ったりする子どもが多く、まきの火をつける作業にも苦心しながらも大いに楽しんだ。ご飯を炊いた後、自然散策をしたが6,000坪の敷地の広さを実感し、また、植物の種類の多さにも驚き、大変興味深げに周囲を見渡していた。カレーも本格的なスパイスを調合してのカレーであり、カレーがどのようなスパイスで調合されているか、カレーの匂いは何のスパイスなのかというのを初めて知った様子であり、皆、興味深そうにスパイスの香りを楽しんでいた。





その他
(課題、今後の
予定など)

今年はコロナの影響と事業の自粛もあり、チラシなどで周知をしても当初の計画とは裏腹に学習支援の方の参加者が集まることはなかった。また、団体の認知度が低いのも影響している。マスメディアに取り上げられたりしたことで、認知は徐々に広がりつつあるが、子どもの参加者が俄然少ないという状態は否めない。今後もあらゆる手立てを使いながら生徒の募集を呼びかける算段である。しかし、コロナの再流行に伴い、学習支援から自然体験学習を中心にした取り組みを心がけていきたい。また、コロナを中心とした社会の混乱にともない当初の計画通りに事は進まないが、計画を立て直しながら今後の活動の方向性をニーズのある事業に特化させていきたい。また、社会情勢を見ながらも、感染拡大防止に努めるため当面は事業活動をさらに自粛する予定である。